

玉川大学 eR@sers ロボカップ世界大会 初出場で優勝!

岡田浩之 ●工学部教授



真んなかで学生たちとお揃いのポロシャツを着ているのがロボットeR@ser。周りで何人かが同時に話をしていても、話しかけている正面の人の声だけをちゃんと認識できる



正面から見ると、とてもユーモラスな表情のロボットeR@ser

玉川大学工学部のロボット工房「Robo Works」に所属する学生を中心とし、電気通信大学およびNICT（情報通信研究機構）、ATR（国際電気通信基礎技術研究所）と合同チームを組んだチームeR@sers（イレイサーズ）は、七月一四日から二〇日まで中国の蘇州市で開催されたロボカップ世界大会で、見事優勝しました。

ロボカップは、二〇五〇年にサッカーのワールドカップで優勝したチームと戦って勝つことを最終目標にしたロボット技術を競う大会です。サッカーを中心に始まりましたが、ほかにもレスキューロボットや家庭ロボットなど、いくつかのリーグに分かれて世界大会が行われています。今回、優勝したのはロボカップ@ホームリーグで、人とともに作業を

行うロボットが、キッチンやリビングルームで様々な課題に取り組み、その達成度により勝敗が競われます。日常生活で人間を支援する自律ロボットによる競技を通じ、人とコミュニケーションをとりながらより役に立つ仕事を行う実用的なロボットの実現を目指したものです。試合は、家庭のような環境で「自己紹介する」「人についていく」「探しものをする」「言われたものを持つてくる」「人を見分ける」などの課題をリーグ形式で競いました。チームeR@sersは、五月に静岡県沼津市で開催された国内大会で優

勝し、世界大会への出場権を獲得していました。七月一四日から始まった世界大会では、ドイツやイラン、チリ、メキシコなど八つの国と地域から一四チームが出場するなか、日本から唯一の出場チームとして十分に実力を発揮。世界の強豪チームが集うなかで、一次予選を二位で突破、続く二次予選では苦戦するも三位で五チームが競う決勝に勝ち上がりました。

七月二〇日の決勝戦では、ロボットeR@serの特徴である、騒音のなかでも話者を選ばない自然な音声対話技術や、高速で安定した画像処理システムによる人の顔やリビングにあるさまざまな物の認識・記憶技術を十分にアピールすることができました。その結果、ロボカップ@ホームリーグに初出場ながら優勝することができました。

大学八号館にあるロボット工房はいつでも自由に見学ができます。皆さんもぜひ、ロボット工房に来て世界一のロボットeR@sersをご覧ください。